2025 年度 鈴鹿医療科学大学大学院
医療科学研究科 医療科学専攻 臨床心理学分野
第 2 期入学試験問題

受験番号： _____ 氏名： _____

* 各ページ上部の所定の欄にも受験番号を記入してください。

問題 1

以下の①～⑤の用語・人物について簡潔に説明しなさい。

① 不安症群 (DSM-5-TR による)

出題の意図

公認心理師カリキュラムの学部レベルの科目で学習する、精神疾患の診断名と診断基準について正しく理解できているかを問うもの。

解答例

不安症群とは過剰な恐怖及び不安、そしてそれらに関連する著しい行動上の障害である。不安症群には、限局性恐怖症、社交不安症、広場恐怖症、パニック症、全般不安症、分離不安症、場面緘黙（選択性緘黙）が含まれる。（このうち、3つ程度について簡単に説明ができていると良い）

② バトラー (Butler, R.N.)

出題の意図

発達心理学（高齢者）、福祉心理学に関する基本的知識を問うために出題した。ネガティブなものとして捉えられがちな高齢者を正しく理解する姿勢を示した「回想法」「エイジズム」の創出者として書かれていることが求められる。その内容についても述べてほしい。

解答例

回想法の創始者であり、エイジズムを論じた者である。

従来、高齢者が過去を振り返ることについては否定的な理解がなされてきた。しかしバトラーは、この過去の回想について、自分が歩んできた人生を振り返り、整理し、その意味を考えるとという自然なプロセスであると論じた。またこの回想に対して専門家が受容的な姿勢で介入していくことで、人生の統合が図れると指摘した。

一方で、この高齢ということを理由にステレオタイプ化して差別する状況についてエイジズム（年齢差別）という言葉を用いて批判したのもバトラーである。彼は、高齢者が社会的な役割を担うような生き方（プロダクティブ・エイジング）を目指せるような社会を提唱した。

③ ウェクスラー式知能検査

出題の意図

発達心理学、知覚及び認知、障害者（児）心理学（発達障害）、心理状態の観察及び結果の分析（知能検査）、教育に関する心理学（特別支援教育）など広範囲において必要な基礎知識を備えているか測る目的で出題した。

解答例

ウェクスラー式知能検査は、学習障害などの発達に関する問題の原因やメカニズムを明らかにしたり、受検者の能力特性に基づいた的確な支援を導き出すことを目的に行う。年齢によって WIPPSI, WISC, WAIS のいずれかを使用し、構成指標として言語理解、知覚推理、ワーキングメモリー、

処理速度などがある。言語理解は、言語による理解力、推理力、思考力を測る。知覚推理は、視覚的な情報を把握し、推理して対応する能力を測る。ワーキングメモリーは、一時的に情報を記憶しながら処理する能力や集中力を測る。処理速度は、情報を処理するスピードを測る。ウェクスラー式知能検査と、学習、運動、視覚処理に関する他の検査を組み合わせることによって、個人の発達特性がより明らかになり、適切な支援に役立てることができる。

④ ICF（国際生活機能分類）

出題の意図

公認心理師試験出題基準・ブループリントにおける「⑬障害者（児）の心理学-(1)身体障害、知的障害及び精神障害-国際生活機能分類（ICF）」に関する知識を問う問題。

解答のポイントは、①ICFが「人間の生活機能と障害についての分類」であること、②「健康状態」、「生活機能」、「背景因子」の相互作用モデルを採用していること、③障害によるマイナス面だけでなく、生活機能というプラス面に着目している点を説明できていること。

解答例

- ・ WHO（世界保健機関）が2001年に採択した「人間の生活機能と障害についての分類」である。
- ・ ICFでは「健康状態」、3つの「生活機能（心身機能・構造、活動、参加）」、2つの「背景因子（環境因子、個人因子）」が互いに影響し合う相互作用モデルを採用している。
- ・ 前身のICIDHモデルは障害によるマイナス面のみに注目した分類であったのに対し、ICFは生活機能というプラス面に着目する。

⑤ 家族療法

出題の意図

心理学に関する基本的概念を正しく理解できているかどうかを問う問題である。「家族療法」は令和6年版公認心理師試験出題基準・ブループリント（11 社会及び集団に関する心理学－（3）家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響）に含まれているため、妥当な出題であると考えられる。

解答例

家族療法とは、症状や問題を個人に属するのではなく、家族に代表されるような複数人の人間関係の機能不全の結果として理解し、治療的なアプローチを行う心理療法の流派である。主要な理論に家族を一つの動的なシステムとして捉える家族システム論があり、その円環論的な認識論の立場にもとづき、症状や問題を呈している者を患者ではなくIP（特定された患者、患者とされる人）として捉える。なお、家族療法には諸派があり、家族の構造に着目する構造派、家族成員の情緒と理性の分化に着目するボーエン派、家族の歴史に着目する多世代派、家族間のコミュニケーション・パターンに着目するコミュニケーション派などがある。また、家族療法から派生したものとして解決志向アプローチ、ナラティブ・アプローチ、オープン・ダイアログなどがある。

問題 2

事例概要を読み、以下の各問に回答しなさい。

事例概要

中学 2 年生の女子 A さん。夏休み明けから「他の人が怖い」と訴えるようになり、教室に入ることが出来なくなり、現在は別室で学習をしている。元々は快活な性格で校内での交友関係も広く、担任教師や家族はその変化に驚いている。A さん本人は、夏休み中に友人と些細なトラブルがあったことが現状の原因だと捉えているようだという。心配した担任がスクールカウンセラー（以下、SC）の利用を勧め、SC が本人と母親に会うこととなった。別室担当の教員からは、学習内に A さんの集中力が途切れやすいこと、誰もいない教室でも時々周囲を気にする素振りを見せること、時折独り言を呟く様子がみられることなどが SC に伝えられた。

問 1 A さんのアセスメントを行う際に必要であると考えられる心理検査を一つ挙げ、その理由について述べよ（200 字～300 字）。※スクールカウンセリング場面での現実的実施可能性は問わないものとする。

出題の意図

統合失調症は青年期が好発期の精神疾患であり、スクールカウンセリング場面ではしばしば遭遇する。発症直前および初期の時点では他の不適応状態との鑑別が困難であるが、早期の精神医学的治療がその後の予後に影響を及ぼすため、心理職にとって疾患に対する理解の重要性は大きい。そのため、統合失調症が疑われる事例における心理検査を用いたアセスメントに関する理解を問う意図で出題を行っている。

解答例

A さんが呈している独語や被注察感、対人不安の高まりなどの各症状からは、精神病水準の状態にあることが疑われる。よって、A さんのアセスメントを行う際にはロールシャッハ・テストや風景構成

法、TAT といった投射法検査、症状の評価を行うための BPRS、PANSS といった質問紙検査を用い、その病理水準と症状の評価を行うことが必要であると考えられる。このうち投射法検査は A さんの自我の状態、現実検討力、刺激に対する反応性、現実構成や知覚の程度などを推測する点で有用となると考えられる。ただし、A さんの状態によっては、これらの投射法検査が過度に侵襲的なものとなることも想定されるため、その実施の可否については慎重に検討を行う必要がある（300 字）。

問 2 A さんの呈している状態と関連すると考えられる診断名を一つ挙げ、その特徴と本事例が関連すると考えられる理由について述べなさい（300 字～400 字）。

出題の意図

統合失調症は青年期が好発期の精神疾患であり、スクールカウンセリング場面ではしばしば遭遇する。発症直前および初期の時点では他の不適応状態との鑑別が困難であるが、早期の精神医学的治療がその後の予後に影響を及ぼすため、心理職にとって疾患に対する理解の重要性は大きい。そのため、統合失調症が疑われる事例における病理的特徴に関する理解を問う意図で出題を行っている。

解答例

A さんは統合失調症の状態に近いのではないかと考えられる。統合失調症では妄想や幻覚、幻聴といった陽性症状のほか、感情や意欲の低下といった陰性症状が生じる。A さんにおいては独語や被注察感、他者を恐怖する訴えなど、それ以前は認められなかった行動上の特徴がみられ、これらと陽性症状との結びつきが推測される。加えて、夏休み中に友人と些細なトラブルがあったものの、元々は快活で交友関係の広いタイプであった A さんが急に対人接触を拒むようになるという落差の大きさが認められる。統合失調症は青年期から好発期に入るため、A さんのように青年期に急激に人格や行動上の変化が認められた際には統合失調症の発症を考える必要がある（300 字）。

問 3 スクールカウンセラーとして、あなたが A さんに対応する際の方針について述べなさい（300 字～400 字）。

出題の意図

統合失調症は青年期が好発期の精神疾患であり、スクールカウンセリング場面ではしばしば遭遇する。発症直前および初期の時点では他の不適応状態との鑑別が困難であるが、早期の精神医学的治療がその後の予後に影響を及ぼすため、心理職にとって疾患に対する理解の重要性は大きい。そのため、統合失調症が疑われる事例における基本的対応にかかる知識の理解を問う意図で出題を行っている。

解答例

スクールカウンセラーとして A さんに対応する際には、ここまで述べてきたように、統合失調症の可能性を考慮しての対応が求められると考えられる。具体的には症状の重篤さを評価し、医療的な治療が必要であると考えられる場合には、教員や保護者を通じて医療機関の早急な受診を勧める必要がある。

学校内での対応にこだわるのは症状を増悪化させてしまうリスクがあるため、早い段階からリファーマを念頭に入れた対応が求められる。その際には医療の受診が必要と思われる理由を説明することに加え、メリットと見通しについても理解を得ることも重要となる。本人や家族にとって精神科の受診を勧められることは抵抗感を与えることがあるため、少しでも受診に対して前向きな態度を形成できるように働きかける必要がある。また、Aさん本人と接する際には、人と関わることで抱く不安に配慮し、過度に侵襲的にならないように関わることに留意する（390字）。

問題3

下の英文を読んで、以下の問1～2に答えなさい。

Similar in functioning to anxious attachment, higher levels of avoidant attachment leads to lower levels of sense of mastery, thus forming the same potential threat to the creation and maintenance of peer relations. ^① However, the etiology is dissimilar. Avoidant attachment is rooted in the distrust of others and their intentions. Having said this, avoidant adolescents will need to overcome their fears and distrust in order to establish peer relations. However, in overcoming this fear, avoidant adolescents are faced with the uncomfortable feeling getting close to others due to potential dependency issues (Çelikbaş & Yalçınkaya-Alkar, 2022). Besides these social relations challenges for adolescents, adolescents' mental health (Konaszewski et al., 2021) can be influenced by one's resiliency. Since the roots of resiliency are founded in one's attachment style, this should be taken into consideration as a potential threat to both adolescents' level of social competency and mental health.

問1. 下線部①を和訳しなさい。

出題の意図

心理学に関する英語の文献を読んで、その概要を正しく理解することができるかどうかを問うもの。

解答例

不安型愛着の機能と類似して、回避型愛着の傾向が高レベルであることは自尊感情や自己効力感の低さにつながり、仲間関係の構築や維持の難しさといった、同様の潜在的脅威を持つことになる。

問2. 文中の”fears”あるいは”fear”について、本文の内容をもとに説明しなさい。

出題の意図

文献中の重要な語句の意味を、心理学の文脈の中で正しく理解できているかを問うもの。

解答例

他者や他者の意図に対する不信感に根ざす恐怖